

記者発表（資料配付）

月 / 日	担当課(室)係名	電 話	発 表 者 名	その他資料配付先
2月27日(木)	歴史博物館 (学芸課)	079-288-9011	次長 筆保慶一 (学芸課長 香川雅信)	県教委記者クラブ 中播磨県民センター 各報道機関



特別展

驚異と怪異 —モンスターたちは告げる—



人魚 ライデン国立民族学博物館蔵
Collection Nationaal Museum van Wereldculturen. Coll. no. RV-360-10410

展覧会概要

ヨーロッパや中東においては、犬頭人、一角獣といった不可思議ではあるが実在するかもしれない「驚異」は、神の偉大な力を示すものととらえられ、自然に関する知識の一部として伝えられた。また、東アジアにおいては、流星や異形の生き物の誕生など、通常とは異なる現象は、天や神仏からの警告である「怪異」としてとらえられ、歴史書のなかに記録された。

本展では、国立民族学博物館所蔵の民族資料を中心に、人魚、竜、怪鳥、一角獣など、さまざまな世界の想像上の生き物について紹介するとともに、警告・凶兆（モンスターム）を語源とする怪物（モンスター）の文化史的な意味について考えてみたい。

会期等

会 期 令和2年(2020)4月25日(土)
～6月14日(日) [45日間]

開館時間 午前10時～午後5時まで
(入館は午後4時30分まで)

休 館 日 月曜日
※5月4日(月)は開館

会 場 兵庫県立歴史博物館 ギャラリー他

主 催 兵庫県立歴史博物館 神戸新聞社
国立民族学博物館 千里文化財団

後 援 兵庫県 兵庫県教育委員会
NHK神戸放送局 サンテレビジョン
ラジオ関西

協 力 山陽電気鉄道株式会社
神姫バス株式会社

特別協力 ライデン国立民族学博物館



『怪物誌』 国立民族学博物館蔵
撮影・大道雪代



ろくろ首 ライデン国立民族学博物館蔵
Collection Nationaal Museum van Wereldculturen.
Coll. no. RV-360-4740

観覧料

	個人料金	一般団体料金	障がい者料金	障がい者団体料金
大人	1000円	800円	250円	200円
大学生	700円	550円	150円	100円
70歳以上	500円	400円	—	—

・高校生以下は無料です。
・障がい者1人につき介護者1人は無料です。
・一般団体料金は、20名以上の団体で適用となります。
・障がい者団体料金は、20名以上の団体で、かつ総利用者数に占める障がい者の割合が半数以上の場合に適用となります。



件(くだん)の剥製 個人蔵

展示構成と主な出品資料

展示構成

第Ⅰ部 想像界の生物相

- 1 水
- 2 天
- 3 地
- 4 驚異の部屋の奥へ

第Ⅱ部 想像界の変相

- 1 見る
- 2 知る
- 3 創る



淡路人形 九尾の狐 兵庫県立歴史博物館蔵

主な展示資料

人魚のミイラ (ライデン国立民族学博物館蔵)

アルドロヴァンディ著『怪物誌』(国立民族学博物館蔵)

カズウィーニー著『被造物の驚異』(国立民族学博物館蔵)

イッカククジラの牙 (国立民族学博物館蔵)

河童の頭 (明石市立文化博物館蔵)

淡路人形 九尾の狐 (兵庫県立歴史博物館蔵)

件の剥製 (個人蔵) ※姫路展のみの出品

無支祈図 (個人蔵)

※姫路展のみの出品、孫悟空のモデルとなった怪物「無支祈」を描いた絵、初公開

ドラゴン骨格標本 (江本創氏制作)

「異類の行進」(五十嵐大介氏画)

リヴァイアサン模型 (スクウェアエニックス蔵)



無支祈図 (むしきず) 個人蔵

関連事業

(1) 館長対談「驚異と怪異の世界」

ゲスト／山中由里子氏 (国立民族学博物館)

榎村寛之氏 (三重県立斎宮歴史博物館)

日時／5月10日(日) 午後2時～3時30分

会場／当館地階ホール (無料、申込不要)

定員／100名 (先着順)

ヨーロッパ・中東の「驚異」と東アジアの「怪異」について、当館の藪田貫館長がそれぞれの専門家と語り合います。



ジェニー・ハニヴァー 個人蔵
大道雪代撮影



虎仮面（タイガー・マスク）
国立民族学博物館蔵

(2) 特別展講演会「怪談を蒐集する」

日時／5月17日（日） 午後2時～3時30分

会場／当館地階ホール（無料、申込不要）

講師／木原浩勝氏（作家・怪談蒐集家）

定員／100名（先着順）

スタジオジブリのスタッフとして「天空の城ラピュタ」「となりのトトロ」などを手がけたのち、怪談蒐集家に転身して『新耳袋』などの実話怪談を数多く著した木原浩勝氏が、怪談蒐集の中で出会ったさまざまなエピソードについて語ります。

(3) れきはくアカデミー「怪異から妖怪へ」

日時／5月24日（日） 午後2時～3時30分

会場／当館地階ホール（無料、申込不要）

講師／香川雅信（当館学芸課長）

定員／100名（先着順）

怪火や怪音といった「怪異」は、かつては凶兆として恐れられていました。しかし江戸時代になるとそれらに名前がつけられ、「妖怪」として一種のキャラクターと化していきます。その背景にはどのような社会の変化があったのか、考えてみたいと思います。

(4) 展覧会ガイド

日時／4月26日（日）・5月10日（日）・5月24日（日）

いずれも午前11時から

★お問い合わせ先

兵庫県立歴史博物館

〒670-0012 兵庫県姫路市本町68番地

TEL 079-288-9011 FAX 079-288-9013

<http://www.hyogo-c.ed.jp/~rekihaku-bo>

（展覧会内容に関すること） 担当学芸員 香川 雅信

（広報写真提供に関すること） 事業企画課 吉原 大志

★交通

JR 姫路駅・山陽電車山陽姫路駅から、神姫バス「姫路医療センター経由」系統で約8分、『姫山公園北・博物館前』下車または、城周辺観光ループバスで約8分、『博物館前』下車

※周辺の有料駐車場をご利用ください。

※大型バスでのご来館の場合は、事前に当館にご連絡下さい。

特別展「驚異と怪異—モンスターたちは告げる—」
画像資料



1. 人魚 ライデン国立民族学博物館蔵
Collection Nationaal Museum van Wereldculturen.
Coll. no. RV-360-10410



2. ろくろ首 ライデン国立民族学博物館蔵
Collection Nationaal Museum van Wereldculturen.
Coll. no. RV-360-4740



3. 『怪物誌』 国立民族学博物館蔵 大道雪代撮影



4. 件(くだん)の剥製 個人蔵



5. 無支祈図 (むしきず) 個人蔵



6. 淡路人形 九尾の狐 兵庫県立歴史博物館蔵



7. ジェニー・ハニヴァー 個人蔵
大道雪代撮影



8. 虎仮面 (タイガー・マスク)
国立民族学博物館蔵